

平成 29 年 1 月

年頭所感

“取り組み”そして“取り込む”年に

理事長 吉岡 俊正

本年もよろしくお願ひします。

今年は酉年です。商いにおいては何でも取り込むことのできる縁起の良い年であるとされます。本学としても、何でも取り込んで良い年にしたいと思ひます。新しい教育、研究、医療、良いものをどんどん“取り込み”たいものです。しかし、どんどんとは言っても大学は厳しい環境にありますので、本学にとって何が良いのかをよく吟味して“取り込む”必要があります。そのためには、“取り込む”前そして後にも“取り組む”必要があります。“取り込む”前には、どのように使うか、進めるかを良く検討して“取り込む”判断をしなければなりません。“取り込んだ”後にも継続するあるいは活用する“取り組み”を続けることが必要です。と云うことで本年はぜひ、“取り組み、取り込み、取り組む”という“取り取り取り”にしたいと思ひます。

勿論これまで本学は様々な取り組みを行ってきましたが、外からは見えにくい地道な努力、いわばミクロの取り組みを重ねてきました。今年、これを大学全体の成果、即ちマクロの取り組みとして、社会に示さなくてはなりません。

今年は大学再生計画に一応の区切りがついたことを社会に示し、新たな中長期目標である「信頼構築」、「医療安全」、「女性の活躍」、「垣根を越える」、「財務改善」という 5 つの柱を社会から認知されるように進め、成果をあげていくことで良い年となります。

具体的には大学再生計画の総括を行い、外部評価による検証を受けたいと思います。本年進めるプロジェクトとしては、医療施設の再編成、医療安全の推進、建物の改築と補強、本院中央病棟での集中治療の再開、全ての医療施設のフルスペックでの稼働、新校舎の建設や東医療センター移転の具体化などがあります。さらに教育研究では、医学部のカリキュラム改訂、看護学部の教育の将来像の検討、幾つかの科学研究費補助金、AMED(日本医療研究開発機構)あるいは JST(科学技術振興機構)の大型研究の推進があります。これまで本学が補助を受けていたがんの専門職養成プログラムであるいわゆるがんプロは本年度で終了しますが、新たな募集も予定されており、教育研究についても新たな取り組みを具体化する年となります。

建学の精神の定着にも取り組まなくてはなりません。間もなく入学試験の時期ですが、この 2 年間で医学部が 2 校増え、看護学部が数多く新設されているなか、女性医療者を育成するという建学の精神に基づいて本学は存在意義を強くしなくてはなりません。まずは学内での女性の活躍をもっと広げることで女

子医大らしさを一層高めることができます。

ここ数年間本学は厳しい環境にあり、今年も決して楽観できる状況ではありません。しかしながら、教職員の皆様の努力と協力により少しずつ光が見えてきています。今年は“取り組み取り込む”ことによって、より良い一年としていきましょう。